



ガイナーレ鳥取

サッカーだけじゃない、地域で共創する夜のスタジアム 1/2

「サッカーの試合があるからスタジアムに行く」それだけではもったいない。試合がない日でも地域の方々に使っていただけるスタジアムがあってもいい。そんな思いからスタジアムの新たな活用方法を考えました。ぼんやりと夕日を眺めていると夜の帷が下り、星々が輝きはじめ、ほのか灯が浮かび上がってくる。ただただゆっくりとした時間の流れとゆったりとした空間を過ごせる場所。Jリーグ公式戦の熱狂とは対照的な夜のスタジアム。それが「夜宴スタジアム」です。行政と地域の元気な企業との共創による新たなスタジアムの使い方です。



活動場所 チュウブYAJINスタジアム



協働者

企業、行政

協働者名

米子市、光電気LEDシステム株式会社、
 中海放送テレビ株式会社、ローカルエナジー株式会社、
 デジタルハリウッド、各店舗



協働者の声

光電気LEDシステム株式会社／代表取締役 松本 俊次 氏

光電気LEDシステム株式会社



夜間は眠っているスタジアムをどのように活用するのか、様々なアイデアとともに色々な思いを形にする話にトキメキを感じ、一緒にお手伝いできることに喜びを感じました。人が癒され、幸せを感じ、夢を語り、絆を感じられるスタジアム。地元の方だけにとどまらず、全国の方達に楽しんでいただける場所になれると思います。



活動詳細情報

- 1 [夜宴スタジアム公式HP](#)
- 2 [公式サイト①](#)
- 3 [公式サイト②](#)
- 4 [公式Twitter](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





ガイナーレ鳥取

サッカーだけじゃない、地域で共創する夜のスタジアム 2/2

Story

1 きっかけは日本初!の市民協賛金を財源にした自前のスタジアム

クラウドファンディングが広まるよりも昔ちょうど10年前、クラブ保有のスタジアムを作りたいと3億円を目標に地域の皆様から寄付金を集めることからスタートし、2012年12月、チュウブYAJINスタジアムが完成しました。



2 2021年5月に「夜宴スタジアム」がスタート!

コロナ禍で以前のように人が集まって楽しむことが困難になりましたが、スタジアムという広大な芝生広場と豊富な地下水、スタジアムから望む絶景の大山、島根半島に沈む美しい夕日、そしてきれいな星空。これらをうまく活用すれば密を避けた地域のみなさんに使っていただける空間ができると考えました。また、本プロジェクトは米子市の「新規ビジネスモデル創造支援事業」に採択され、地域の企業の方々と共創することも目的にしており、一緒に計画を進めていきました。

はじめてみると、こんな光景が広がっていました。「お弁当を買ってきて食事を外で楽しむ家族。コトに寝そべり星空を見上げる人。夫婦・恋人とまったり時間を過ごす人たち。テントの下でオンライン会議やサッカー観戦を楽しむ方。焚き火を囲んでのんびらん。カメラを構え映えスポットを探して行ったり来たりする人たち。出店している地域の飲食店のフードやスイーツで楽しむ人。



3 スタジアムの地域価値をアップデートしていく。

「そこにある自然、ゆったりとした時間・空間、人々のつながり」が、スタジアムや地域が持っている本質的な価値であり豊かさであることに「夜宴スタジアム」を通して改めて気づくことができました。クラブの大目標は「スポーツを通じたひとづくり、まちづくり」。地域の方々と共創し、ビジネス生み出し、楽しんでもらえる地域のハブとして、これからも唯一無二のスタジアムとして進化してけたらと考えています。